

多賀城市埋蔵文化財調査センター開設30周年記念

# 多賀国府

古代の多賀城から中世の府中へ

於多賀國府。郡郷庄園所務吏。

被レ仰ニ含地頭等。就レ中不レ可

國郡一煩中土民上之由。御旨及ニ

加之被レ置一紙張文於府廳

其状御云。以ニ庄号之威勢一。

不當之道理。於ニ國中吏

秀衡泰衡之先例。可レ致ニ

者。

2017 10/1 <sup>sun</sup> 日

▶ 12/17 <sup>sun</sup> 日

## 記念講演会

基調講演	「古代から中世へ」
日時	平成29年12月16日(土) 13:30
場所	多賀城市文化センター小ホール
講師	入間田宣夫氏(一関市博物館長) 平川南氏(山梨県立博物館長)

# 多賀国府

古代の多賀城から中世の府中へ

古代多賀城が衰退した11世紀中頃以降、中世の陸奥国府を指す「多賀国府」の名が記録に登場するようになります。昭和40年代後半以降、この中世の国府を対象とし、文献史学による研究を皮切りとした活発な調査研究が今日まで進められてきております。

従来、多賀城市西部から仙台市東部にかけての一带は、関連する中世の文書群が現存することから、中世史研究上常に注目される地域でありました。文献上の考察に加え、この地域において本市が行ってきた発掘調査成果は、仙台市による調査成果とともに、「多賀国府」の実態解明に大きく迫るものと考えております。

今回の展示は、多賀城市埋蔵文化財調査センター開設30周年を記念し、考古学及び文献史学の研究成果を踏まえ、古代から中世へと大きく変貌する陸奥国府の姿を紹介するものです。



中世の陸奥府中

画面ほぼ中央が岩切城跡。右が府中城と指定される多賀城跡五万崎地区。これらを取りまく地域が府中だった。



関東下知状 (文暦元年 1234)

留守氏の生前の議状にもとづき、遺領の相続を鎌倉幕府が認めた文書。



新田遺跡の建物跡

火災で焼失した14世紀前半の建物跡。その時の残骸は近くの井戸に投げ込まれていた。



市場のにぎわい

陸奥府中には二つの市があった。冠川と呼ばれた現在の七北田川に開かれた市も、このような光景だったか(「一遍上人絵伝」清浄光寺(遊行寺)蔵より)。



描かれた武士の屋敷

新田遺跡で発見された武士の屋敷を彷彿させる(「法然上人絵伝」より)



七北田川と東光寺付近

東光寺は中世に留守氏が創建した寺院。その周辺は追善供養の板碑が立ち並ぶ供養の場だった。

## 多賀城市埋蔵文化財調査センター展示室

開館時間 9:00 ~ 16:30

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目27-1

☎022-368-0134

主催: 多賀城市 多賀城市教育委員会

後援: 河北新報社 仙台放送局

